

- ・公共交通の弱体化、自家用車依存社会等の地域課題を解決するため、**市がリーダーシップをとって多様な関係者と連携を図り、地域公共交通の効率化・高度化を推進。**
- ・公共交通の利用環境整備や幹線軸の設定など、各種施策を法定計画に位置付け、**MaaSの導入による移動サービスの一元化**や、市内バス事業者6社の間に入って調整し、6社の**共同経営計画の策定を支援**、まちなかの幹線について**等間隔運行の実施により利便性が大幅に向上。**



(取組の概要)

1. 多様な主体の実質的参画

- MaaSの導入にあたって、利便増進による行動喚起のため、**商業分野等の他業種、異業種との協調・連携を実施している。**
- 共同経営計画の策定にあたって、前橋市のほか、群馬県、有識者及び市内バス事業者6社でワーキンググループを設け、最適なダイヤ設定に係る様々な調整を行い、**ダイヤ調整について合意形成を実現している。**

2. 創意工夫

- **MaaSの運用にあたって、マイナンバーカードとの認証連携を実現し、市民割引・敬老割引・障害者割引等、様々な運賃施策を実施するとともに、電子認証により、事務負担を軽減し、持続可能な運用体制を構築。**また、市民に取組を知ってもらうためマスコットキャラクターを作成し、周知活動を行っている。
- 共同経営路線において、バス会社ごとに整理されていた**系統や路線名の表示を統一して再整理。**前橋駅や群馬県庁等にデジタルサイネージを設置したほか、**バスロケーションシステムの活用**や、わかりやすいバスマップの作成等、利用者利便の向上を図っている。

3. 自立性・継続性

- 市内交通ネットワークの再構築を目指し、共同経営の手法を活用した市内中心部の路線バスダイヤ調整により、等間隔運行の実施や、わかりやすい情報案内の強化を推進。また、新技術を活用した交通環境の高度化として、MaaS、自動運転技術、AIの活用を施策として位置付け、利便増進を強化していく。
- **MaaSについては、群馬県と連携し、デジタル最先端技術の活用による、利用しやすい公共交通環境について、県内全域への展開を推進していく。**

MaeMaaS(マエマース)(前橋版MaaS)

マスコットキャラクター

利用者向け案内チラシ

共同経営による等間隔運行

- 対象路線 6社11路線
- 時間帯 平日・土日祝日ともに10時～16時の間
- 最大15分間隔にダイヤ調整
- JR両毛線のダイヤに合わせた時刻設定

⇒11路線について、5ヶ年累計で累計17,681千円の赤字幅の抑制を見込んでいる。

○これまで

時間帯によって、団子状態や30分以上の間隔

時刻	0分	15分	30分	45分
10時	バス	バス	バス	バス
11時		バス	バス	バス
15時	バス	バス	バス	バス

○R4.4.1～

15分に1度は必ず運行する形にダイヤ調整

時刻	0分	15分	30分	45分
10時	バス	バス	バス	バス
11時	バス	バス	バス	バス
15時	バス	バス	バス	バス

本町ライン利用者数 (人/月)

期間	利用者数
R4.1～R4.3	44357
R4.4～R4.7	52560

利用者増 (約18%)

コロナからの回復など他の要素もあるため、今後アンケート等で効果測定

全国3例目の共同経営として国土交通大臣認可 (市内乗合バス事業者6者)

群馬県前橋市

参考：6社共同による等間隔運行

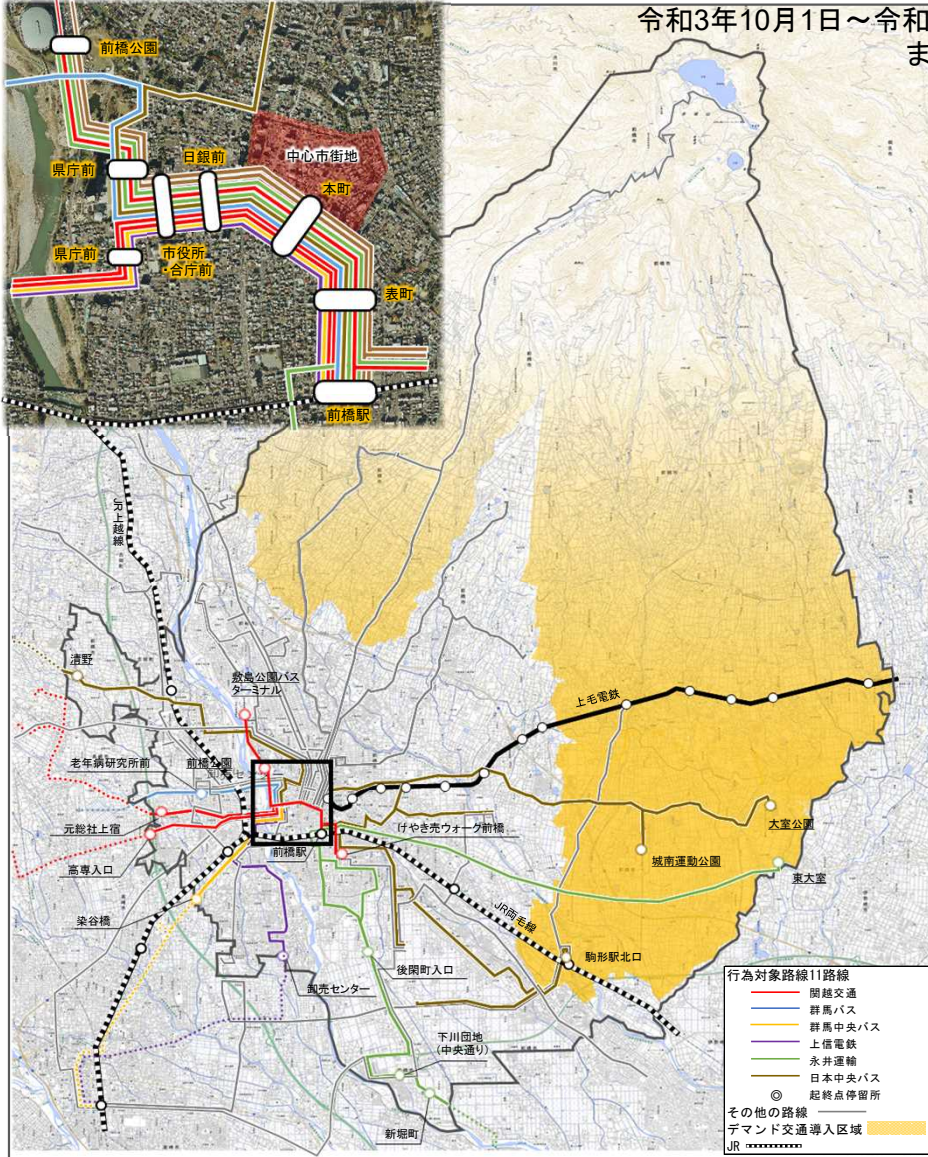
取組主体

関越交通、群馬バス、群馬中央バス、
上信電鉄、永井運輸、日本中央バス

本町ライン (前橋駅～県庁前)

計画期間

令和3年10月1日～令和8年3月31日
までの4.5年間



*行為対象路線について、計画区域内の終点停留所を記載し、区域外は破線表示

参考：MaeMaaS (マエマース) (前橋版MaaS)

MaeMaaS 目指すサービスの全体像



マイナンバーカードとSuicaの連携の仕組み

